

ポイント  
**3**

**被災後の生活で困ることは?**

**想像以上に過酷な被災後の生活**

まず困ることは、飲み水とトイレの水がないことです。次に、火や水を使わない食料が手に入らない、電気やガスが使えない、電話が使えないなど、すぐに不自由な生活を余儀なくされます。また、水害の後にはすぐに後片付けが始まります。そのとき、泥だらけの被災地を歩く長靴がない、断水で泥を洗い流すことができないなど、過去の水害では清掃関係での困りごとが多く見受けられます。



ポイント  
**4**

**被害を少しでも小さくするためには?**

**水害を最小限にするために備えること**

- 家屋の老朽箇所の修理や雨どいの清掃をしていますか?
- 側溝・排水溝を清掃していますか?
- 土のうなどを準備していますか?
- 台風などで強風が発生した場合、ベランダなどに置いている植木鉢などの危険物を、屋内にしまっていますか?

\*実際に豪雨に見舞われた際は、戸締りや雨戸・窓閉めを徹底することや、貴重品や衣料品などを上層階に移動することも、被害を小さくすることにつながります。

対策が  
できているのか、  
チェックして  
みましょう!

側溝・排水溝にたまる  
ゴミや落ち葉を取り除  
いて、排水をよくして  
おきましょう。



飲料水や食料、携帯ラジオ、懐中電灯、歯ブラシ、常用薬(お薬手帳)、携帯電話用充電器、保険証、貯金通帳のコピー、予備のメガネ、携帯トイレなどをリュックに入れておきましょう。

**被災後の生活のために準備しておくこと**

- 食品や日用品を多めにストックしていますか? \*1
- 避難生活に備え、必要最低限のものをリュックなどにまとめていますか?
- 避難路や避難場所を知っていますか?
- ハザードマップなどで、住んでいる地域の災害リスクを確認していますか? \*2
- 近隣住民同士で協力できる体制はできていますか?

\*1 賞味期限などの心配をなくするために、日常の中で消費しながら買い足すといった「ローリングストック法」と呼ばれる備蓄方法があります。  
\*2 ハザードマップは、自治体のホームページから入手することができます。

避難場所まで、  
複数の経路を  
確認しましょう。



生活を守る! 防災・減災情報 **豪雨災害**



近年、私たちは過去に経験したことのない豪雨に見舞われることが多くなりました。その結果、平野部では浸水被害が、山間地では土砂災害が毎年のように発生しています。また、近年は過去に豪雨による被害がなかった地域での被害が目立ちます。被災した時に困らないようにするため、普段からしっかり備えることが大切です。



ポイント  
**1**

**どんな被害が発生するのか?**

**河川の氾濫・土砂災害による甚大な被害**

台風等の影響により豪雨が発生すると、河川の氾濫やがけ崩れ・地すべり・土石流などの土砂災害が起こることがあり、最悪の場合、家屋が流出あるいは土砂に埋没し、死傷者が出ることもあります。

**浸水により奪われる日常生活**

家屋が浸水した場合、畳・家具類・冷蔵庫やテレビなどの電気製品・衣類・寝具類等が使用できなくなります。水に浸かっていない壁も、裏側の建材が水を吸ってカビが発生する可能性があります。また、床の下には大量の泥が積もり、悪臭がいつまでも残ることもあります。



川の水が濁る、水位が減少する、地鳴りがするなど、災害が起こる前には普段と違う現象が起こることがあります。

ポイント  
**2**

**身を守るためには?**



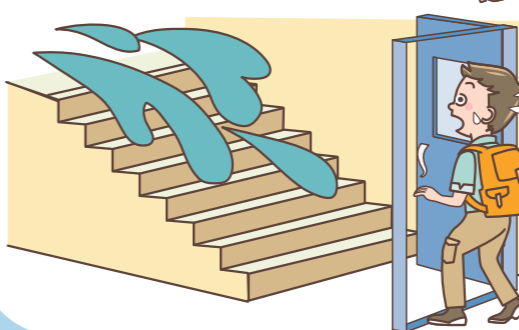
河川の氾濫や土砂災害は、突然、発生します。天候が荒れる前に、避難をしましょう。

**まずは情報に注意すること**

最も大事なことは、降雨状況や河川の水位上昇の見通しを確認し、危険性を把握することです。マスコミの情報だけでなく、インターネットなどを活用して情報を収集しましょう。自治体から「避難準備・高齢者等準備開始」など、避難に関する情報が出たらすぐに避難を開始しましょう。

**身の危険を感じたら行動すること**

自治体からの指示を待つことなく避難することが大切です。水の抵抗で歩きにくくなるので、水位が膝下より上になる前に避難をしましょう。仮に、屋外への避難が危険だと思った場合は、無理に外に出ることなく、2階以上の階層に避難します。豪雨の中、田畑を見に行った人が犠牲になったケースも見受けられます。危険行為は絶対にやめましょう。



地下や半地下は水没し、命にかかわる危険性もあります。大雨に関する情報を入手したら、速やかに地上へ避難しましょう。



# 洪水ハザードマップを知ろう

大規模な河川のはん濫の危険がせまったとき、みなさんに安全に避難していただくため、河川のはん濫により浸水が想定される区域(洪水浸水想定区域)に加えて、避難情報や防災情報を表示しています。

## ハザードマップが教えてくれること

市役所や町村役場から各家庭に「ハザードマップ」が配られていると思います。でも、



とひと目見た後、ゴミ箱行きになっていませんか？

## ハザードマップを活用していますか？

ハザードマップはいわばあなたのまちの「レントゲン写真」。一見よく分からない自然災害という恐ろしい病気を、最新の技術を使って診断し、悪いところや弱いところを教えてくださいます。



ぜひ、大切な情報が詰まったハザードマップのしくみを理解して、安全・安心な生活に役立てましょう。それは、健康診断の結果をよく読んで、健康で元氣な生活を送ることに似ています。

## ハザードマップって？

ある自然災害に対して、危険な箇所や地区を地図上に示したものです。過去の災害をふまえて、どのような地形・地質・土地条件のところか危険なのかを判定して危険度を示した地図や、防災上の施設、避難場所などを示した地図があります。

お住まいの自治体でハザードマップが作成・公表されているかどうかは、国土交通省のハザードマップポータルサイト (<https://disaportal.gsi.go.jp/>) で調べるか、市町村役場に問い合わせしてみましょう。



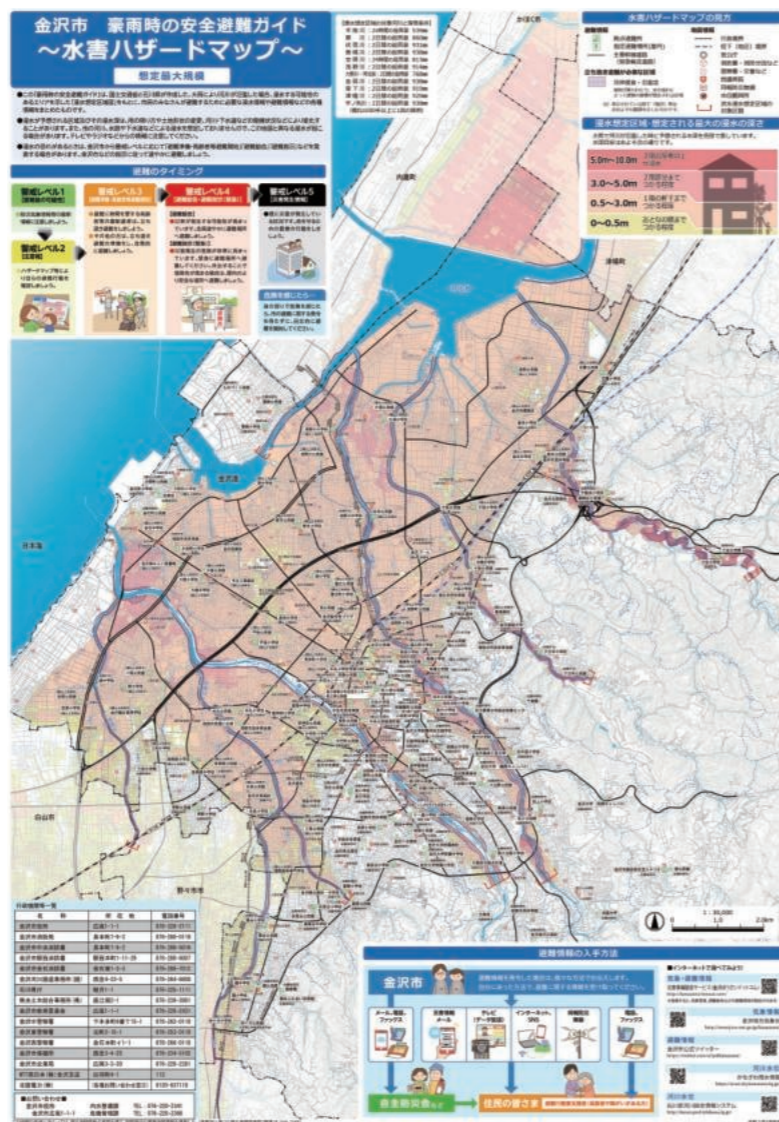
## 様々なハザードマップ

ハザードマップは、洪水ハザードマップ、内水氾濫ハザードマップ、海溝型地震ハザードマップ、活断層型地震ハザードマップ、揺れやすさマップ、液状化危険度マップ、土砂災害危険度マップなど、災害の種類や被害の内容によりたくさんの種類が発行されています。

地図には、被害のひどさ、浸水の深さや揺れやすさなどが表され、身を守るための一時避難場所や、被災した後に一時的に避難する避難所などがわかるようになっています。

## 金沢市水害ハザードマップ全体地図

金沢市のホームページから確認・ダウンロードができます。



# 非常持出品を用意しよう

以下にあげたものを参考に、家族構成などに配慮して準備しましょう。

## 貴重品

現金(10円硬貨があると公衆電話の利用に便利)、預貯金通帳、印鑑、免許証、権利証書など。

## 非常食品

(缶切り、栓抜きも忘れずに) かんパン、缶詰など火を通さなくても食べられる物。ミネラルウォーター、水筒、紙皿、紙コップ、ナイフなど。

## ラジオ

予備電池は多めに用意。

## 応急医薬品

絆創膏、傷薬、包帯、胃腸薬、鎮痛剤など。

## 懐中電灯

予備電池も忘れずに。できれば一人に一つ。

## その他

下着、上着などの衣類。タオル、ティッシュ、合羽、ヘルメット、マッチやライターなど。

## 保険のチェックも忘れずに!

ご契約されている住まいの保険(火災保険)は水災が補償される内容となっているか?十分に確認しておきましょう!

(注) 補償内容は、保険会社または保険商品によって異なります。詳しくは、お近くの損害保険代理店または損害保険会社までお問い合わせください。



## わが家の防災メモ

### 避難場所

※家族、避難のときに声掛けする近所の方、避難先となる親類や知人、勤め先、損害保険代理店など、いざというときの連絡先を考えてメモしておきましょう。

### 家族の連絡先

氏名	電話(学校・勤務先)	住所

### 緊急連絡先

連絡先	電話	住所	メモ